

2026U12ブロックDC スポーツマンシップ講習資料

2026/8 JBAユース育成部会

明日からコートと家庭に持ち帰る、14の育成マインド



JBAユース育成
は長期的視点。



子どもは大人の
縮小版ではな
い。



育成年代の活動
動は「教育的」
であること。



「強化」ではな
く「個の成長
(育成)」を。



多様なニーズを
受容し、楽しさ
を植え付ける。



勝利を目指す
が、土台作りを
最優先に。



教えすぎ注意。
判断力を育む。



マンツーマンは
「個の成長」の
ツール。



保護者は
「24時間ルール」
の徹底を。



PHVと生月
(RAE) のバイ
アスを知る。



早期専門化によ
るケガ・燃え尽
きを防ぐ。



バスケット以外の
経験もバスケット
に活かす。



スポーツの価値
(良き社会人)
を残す。



種まきの季節
(U12) に収穫
を焦らない！

2026年、その先へ。未来をさらによくしていこう。

インテグリティ（誠実さ）とスポーツマンシップの遵守



なぜコーチに
スポーツマンシップ
が求められるか

なぜ今、スポーツにおける「人格指導」が必要なのか

家庭での道德教育の困難化

社会的秩序の軽視と
自己中心的言動

スポーツの介入

最後の
「道德的セーフティネット」
としての役割

若者による仲間の
虐待・性的問題

「技術を教えるだけ」は単なる錯覚



“

「コーチという職業は、単なる技術インストラクターや試合の戦術家ではない。良き指導者であり、カウンセラーであり、知られざるヒーローである。」

子どもたちの現状

問題の根源：子どもたちの「感情の飢餓」

感情が未発達な状態を放置して「規範意識」だけを説いても、対症療法に過ぎません。

「他者からの眼差しに
何も感じない」

「他者の存在は自己の欲求
達成の障害でしかない」



「喜びや感謝の気持ちを
自覚させる体験の欠如」

社会の教室としてのバスケットボールコート

バスケットボール活動こそが、未熟な感情を育て、
社会規範を学ぶインキュベーター（孵化器）となります。

スポーツマンシップ
教育

インテグリティ
教育

マルチリートメント
啓発

「感情が育つ上で必要な
体験や機会の提供」

スポーツの価値 を伝える役割

スポーツの本質とは、相反する二つの側面の融合である

JBA理念:「バスケで日本を元気にする」。スポーツの真の価値は、以下の二つの要素が両立することで生まれます。



第一の柱：「人間力なくして競技力向上なし」

試合までの過程において求められる「忍耐」と「努力」。

この主体的なプロセスを通じてのみ、人格は形成され、真の競技力向上へと繋がります。



第二の柱：多様なニーズに応える環境作り

全ての選手がレベルやニーズに応じて楽しめる環境が必要です。
(運動部活動の地域移行への対応含む)

「競技志向」

ルールを守りながら、
個とチームの成長を目指す。

「レクリエーション志向」

ルールに縛られず、
純粋にプレーを楽しむ。

育成世代における「勝利」の再定義

バスケットボールの本質は競争であり、選手は勝利を求めるべきです。
しかし、指導者の目的は異なります。

Players First, Winning Second

「育成（選手の個の成長）」

>

「強化（チームの勝利）」

（代表やプロチームで最優先されるもの）

なぜ
スポーツマンシップ
教育が必要か？

なぜ今、スポーツマンシップ教育が必要なのか？

現代社会の課題

規範が守られにくい現代社会
(ルール違反の容認)

他者への思いやりの欠如・
関係性の希薄化

「教育のないところに
健全な発達はない」

バスケットボールの価値

チームという「小さな社会」での
人間関係構築

意図的な指導による「規範
意識」と「他者への配慮」の習得

道徳的インキュベーター(育成器)
としてのスポーツの役割

コートから社会へ：なぜ私たちがこれを学ぶのか

スポーツの現場



審判のミスに
怒鳴らない



チームメイトの
失敗をカバーする



厳しい練習に耐え
ルールを守る

形成された「人格」

実社会・ビジネス



理不尽な状況でも
感情を制御する



同僚を助け、
組織に貢献する



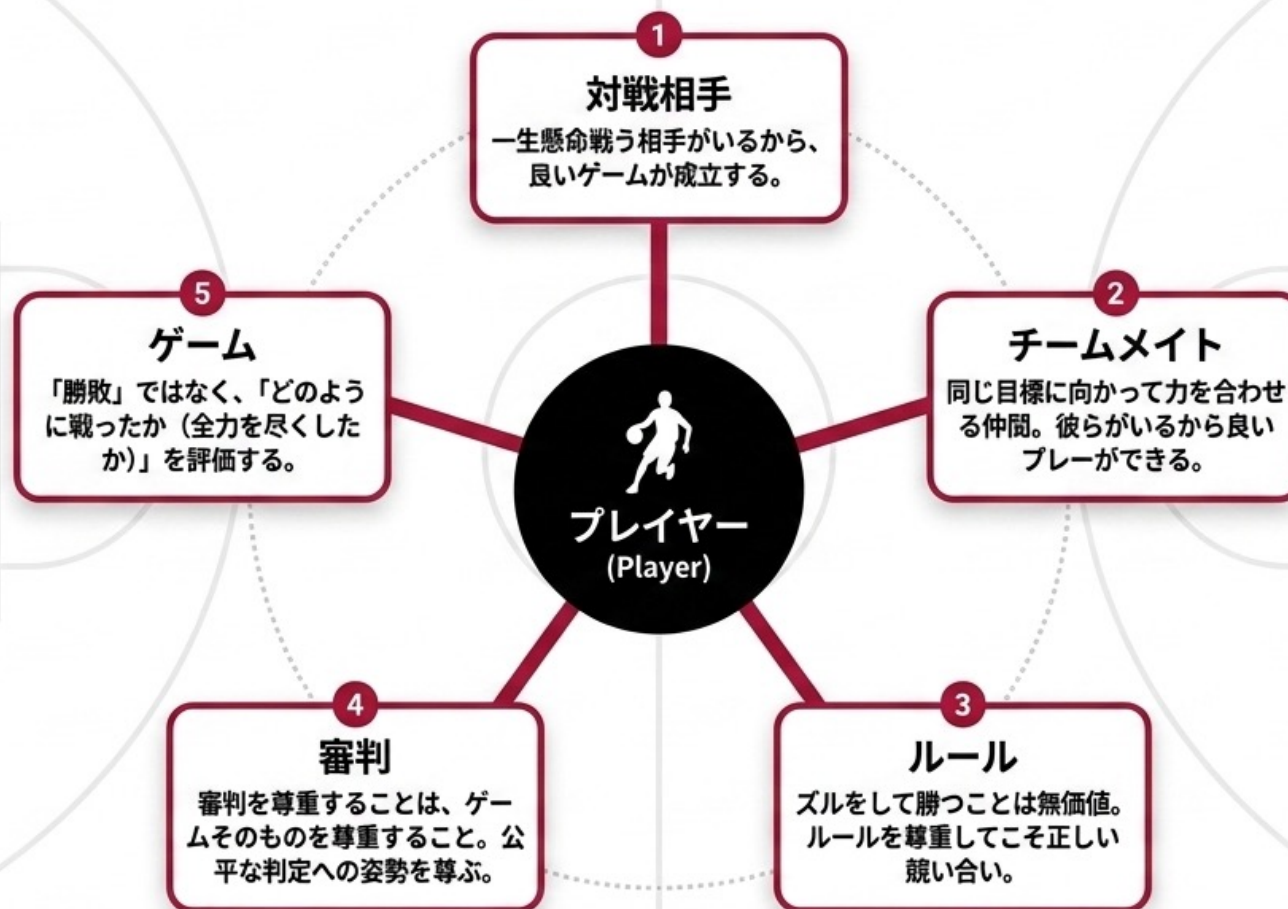
社会的責任を果
たし、信頼を得る

どのように行うか？

リスペクト

を大切にしよう

リスペクトの5つの対象



フェアプレー精神

を大切にしよう

フェアプレー精神と「勝敗」の正しい受け止め方

フェアプレー精神＝「ルールに則って公平な条件の下、正々堂々と全力を尽くして勝利を目指す態度」

グッドウィナー (勝者としての振る舞い)

- ・ 驕らず、対戦相手への敬意を示す。
- ・ 勝利の裏にある周囲のサポート
(審判、運営、仲間) に感謝する。

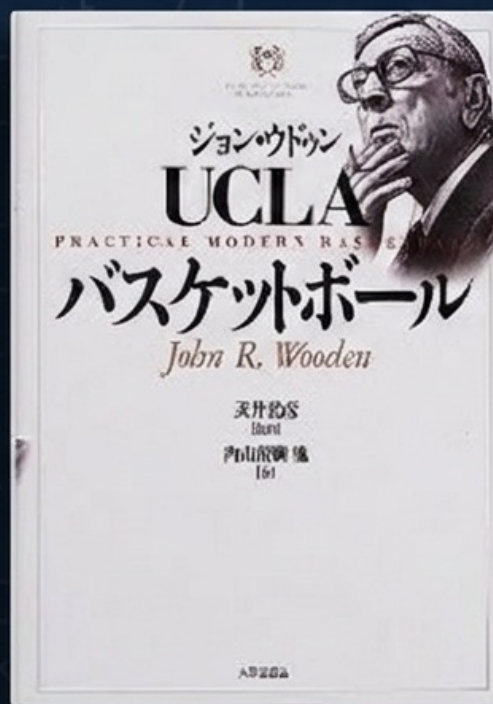
グッドルーザー (敗者としての振る舞い)

- ・ 言い訳をせず、相手の勝利を称える。
- ・ 敗北から「忍耐」「努力」「節制」を
学ぶプロセスへと繋げる。

全力を尽くす姿勢

を大切にしよう

最高峰の哲学：ジョン・ウドゥン



「成功とは、なり得る最高の自分になるためにベストを尽くしたと自覚し、満足することによって得られる心の平和のことだ。」

「全力を尽くせば、成功である」

成功のピラミッド

結果に関わらず、全力を傾けた努力そのものが
個人の素晴らしい成果（成功）をもたらす。



体力的・技術戦術的な成長
(Physical & Tactical Growth)

精神的・社会的な
土台作り
(Mental & Social
Foundation)